

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度岐阜県立池田高等学校学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年6月3日(木) 10:00～12:00
- 3 開催場所 池田高等学校会議室
- 4 参加者

会長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副会長	杉原 孝	育友会長
委員	仲井 智一	池田町教育長
	宇野 秀宣	神戸町教育長
	伊藤 敦	池田町立池田中学校長
	山田 直人	神戸町立神戸中学校長
	西尾真奈巳	神戸町地域代表
	西川 昭	元池田高等学校育友会役員
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長
	安田 正博	元池田高等学校育友会役員
		垂井町青少年県指導員
	学校側	西谷 徹
	杉江 祐子	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	稲葉由里子	生徒指導主事
	古山 克幸	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 教育指導の重点及び学校経営計画(高等学校版マニフェスト)について

意見1: 単位制の改編による教員の負担はないのか。

⇒本校で開講する新選択科目も、今までの学習内容を踏まえて設定するため、指導内容での負担はない。ただし、担当する科目の系列が増えるという負担はある。

意見2: 単位制の導入は、大きなターニングポイントとなる。臨機応変に人生を設計する力を養い、主体的な学びを推進すれば、単位制のメリットがデメリットを凌駕すると思う。

意見3: 単位制の導入について、生徒や保護者の反応はどうだったのか。また、単位制に移行することで、どういうメリットが出てくるのか。

⇒単位制の導入は岐阜県の取組なので、生徒や保護者への特別な説明はない。むしろ、教員の意識を変えることに労力がある。メリットは、教員定数に加配があることである。

(2) 「目指すべき学校像」について

・スクールポリシーの策定に向けて

意見1：18歳成人が色濃くでる時代となる。社会人として責任がもてる生徒を育ててほしい。

意見2：中学生には単位制が理解しにくい。どんな活動ができるか、どんな将来につながるかなど、具体的な見通しがほしい。

意見3：池田高校出身の雇用者は、人との接し方がうまい。コミュニケーション能力の高い、リーダー的な存在になっていく生徒を育ててほしい。

意見4：医療系の仕事に従事し、自立できる生徒を多く育ててほしい。

意見5：高校では、ゴールを早く見つけさせるのか、それともあくまでもステップとしてとらえさせるのか、方向性を定める必要がある。単位制では科目に関する取捨選択が行われるので、選択科目の意味づけをしっかりとしてほしい。生徒たちには、協働、協力などのコミュニケーション、集まって何かもみ合うという経験も大切だと思う。

意見6：スクールポリシーをどれくらい広げるのが難しい。基礎学力や社会人基礎力の育成を掲げると、カリキュラムポリシーが浅くなると思う。

意見7：大学進学から就職まで、多様なニーズにこたえた進路実現が単位制の方向でよいのではないかと思う。

・単位制での習熟クラスの設置の有無、習熟度別授業への期待

意見1：揖斐方面からは、しっかりした生徒たちが、「池田高校には習熟クラスがあるから」といって、無理に大垣市内に通学することなく、池田高校を選択するという現実がある。

意見2：習熟クラスの存在は大きい。習熟クラスを希望しても定員オーバーで入れない生徒がいると聞くので、もう少し枠を広げてほしい。

・まとめ

意見1：地域での活躍を見据え、多様な選択のもと、通常のカリキュラムにはない活動に取り組む。その経験のなかで、全人的な教育を推進する。特に医療・福祉職につく人材を育ててほしい。

6 会議のまとめ

・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。

・「目指すべき学校像」について貴重なご意見をいただいたことが最大の成果である。今後は、第2回の学校運営協議会での審議に向けて、「スクールポリシー」の原案を全職員で練り上げていく。

・今後の課題は、単位制における習熟クラスの設置の有無である。委員の方のご意見を受け止めつつ、習熟クラスではなく、習熟別授業で生徒を育てるカリキュラムを慎重に審議していく。